

学童部(小学生)

2025 年度大会注意事項

八王子市少年軟式野球連盟

八王子市少年軟式野球連盟（以下「八少連」という）の本主催大会は、連盟規程、細則、本取り決め事項、公認野球規則及び公益財団法人全日本軟式野球連盟（以下「全軟連」という）の競技者必携を適用する。

注1) ジュニアトーナメントを除く

注2) 上部大会等、八王子市少年軟式野球連盟主催以外の大会においては各大会の注意事項に準ずる事。

【競技運営に関する注意事項】

1. チームの編成、登録は男女を問わない。
 - (1) 監督1名、コーチ2名以内、選手は10名以上25名以内。ただし、監督、コーチは20歳以上でなければならない。
 - (2) 背番号は監督30番、コーチ29番・28番、主将を10番とし、選手は0番から99番とする。
なお、主将は「Cマーク」をユニフォームシャツの右袖または前面に限り掲出できる。
2. 大会でベンチに入れる人数
 - (1) 登録されユニフォームを着用した監督30番、コーチ29番・28番および選手25名以内とユニフォームを着用しないチーム責任者（引率責任者）、マネージャー、スコアラー、トレーナー等（有資格者）の各1名とする。
 - (2) 熱中症対策として、保護者2名以内をベンチに入れることができる。
 - (3) 公認学童コーチまたはそれに準ずる資格保持者が1名以上ベンチ内にいなければならない。
3. 試合当日の選手の追加、変更および背番号の変更は認める。
4. 監督主将会議で説明または決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。
5. ベンチは組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。
攻守の決定は1回戦より、監督と主将および役員または審判員立会いのもと行う。
6. 大会指定の打順表の提出は、試合開始予定時刻30分前までに、本部に提出し照合を受け、監督と主将および役員または審判員立会いのもとに攻守を決定する。また、その際に資格保持者は資格証を本部へ持参すること。
打順表の記入は、参加申込書に記載された監督・コーチおよび選手を必ず全員フルネームで記入すること。

また、4年生以下の背番号には○印をつけること。

7. グラウンド内ではキャッチボール、トスバッティング、サイドノックのみ認める。

第一試合のチーム 試合開始予定時刻1時間前以降

第二試合以降のチーム 試合開始予定時刻1時間前若しくはメンバー表照合以降

8. 選手の交代は監督が「タイム」をかけ球審に申し出ること。
9. 抗議のできる者は、監督か当該プレーヤーのいずれか1名とする。
10. 監督に限り、グラウンドに出て指示をすることができる。
11. 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けた時には、その程度を問わず球審は臨時代走の処置を行う。塁上の走者が負傷した場合で、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断した時は、臨時代走の処置を行うことができる。
12. ベンチ内での電子機器（携帯電話・パソコン等）の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。

【競技運営に関する特別規則】

1. 試合開始時および終了時に9名以上いないチームは棄権とみなす。
2. 監督不在でも試合は認めるが、代理の場合は、打順表の監督欄に「代理」と必ず明記すること。
3. 試合は、6回戦または時間制限として試合開始後1時間30分を経過した場合は新しいイニングに入らないこととする。
4. 得点差によるコールドゲームを全ての試合に適用する。3回終了時15点差、4回終了時10点差、5回以降7点差。
5. 正式試合は5回を終了すれば成立するが、5回以前でも規定時間に達したならばゲームは成立する。
6. 守備の時間が長い場合（概ね20分）には健康維持を考慮し、審判の判断で給水タイムを設けることができる。（試合時間に入れない）。
7. 延長戦は行わず、6回終了または制限時間を過ぎて同点の場合は、タイブレーク方式を行う。無死一・二塁、継続打順で最大2イニングまで行い、勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決定する。
ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守のうえ、勝敗が決するまで行う。
8. 暗黒降雨などで、5回以前に中止となった場合でも特別継続試合とする。
9. 学童部の投手は、変化球を投げることを禁止する。関節の障害防止のため、まだ、骨の未熟な学童部の投手が、変化球を投げた場合は次のペナルティを課すこととする。
 - (1) 変化球に対して“ボール”を宣告する。
 - (2) 投げないように監督および投手に厳重に注意する。注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときはその投手は交代させる。なお、その投手は他の守備につくことは許されるが、大会期間中、投手として出場することはできない。

- (3) 変化球が投げられた時については、2024年競技者必携のP49の10を適用する。
10. 監督、コーチおよび指導者は投手の育成にあたり、正規の（ナチュラルな）投球動作の指導を徹底すること。走者がいる・いないに係わらず、望ましくない投球動作があった場合は、攻守交替時にその投手に対して正しい投球動作をするよう審判員が注意をする。また、試合終了後にも改めて注意をする。
11. 投手の投球制限については、次の通りとする。
- (1) 一人一日、5・6年生は70球以内とする。
 - (2) ダブルヘッターの場合も、一投手一日70球以内とする。
 - (3) 試合中に70球に達した場合は、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。
 - (4) ボークにもかかわらず投球したものは、投球数とする。
 - (5) タイブレイクになった場合は、一日70球以内であれば引き続き投球することができる。
 - (6) 特別継続試合で投球できる球数は、もとの試合で投じた球数を引き継ぎ残りの球数のみ、試合時間についても残りの試合時間のみで行うものとする。
 - (7) 4年生以下の投手は、投本間16M（全日本学童・都知事杯・王座決定戦・学童新人戦）での投球は出来ない。
12. 時間制限の解釈について
- (1) 試合時間は、大会本部または当該担当審判員が管理し、試合開始時刻を両チームに通告する。
 - (2) 試合時間に達した時は、審判員がそのことを両チームに通告する。
13. クーリングタイムについて
- (1) 7月1日～9月末日迄の間、クーリングタイムを導入する。
※気温等が低い日であっても期間中は実施する。
 - (2) クーリングタイムは5分間とする。
 - (3) クーリングタイムは3回終了時とする。
また、試合開始後45分を経過し上記回数に満たない場合、その攻撃（守備）回が終了時（裏表関係無し）とする。
14. 指名打者の取り扱いについて
- 指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手を採用しない。
- チームは必ずしも指名打者を指名しなくてもよいが、試合前に指名しなかったときは、その試合で指名打者を使うことはできない。

【雨天の際の連絡、その他について】

1. 小雨でも球場使用可能な場合は試合を行う。
2. 雨天の際及び日程変更は必ず HP で確認すること。
(地域的に雨の所がある)。

【禁止事項、試合のスピード化等に関する注意事項】

1. 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
2. 投手が投手板に触れて位置についたら、投手の動揺を誘うような声を発してはならない。
3. 塁上の走者、あるいはコーチボックスやベンチから守備側のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
4. 打球がフェアかファウルか、投球がストライクかボールか、あるいは走者がアウトかセーフかという裁定に限らず、審判員の判断に基づく裁定は最終のものであるから、プレーヤー、監督、コーチ、または控えのプレーヤーが、その裁定に対して、異議を唱えることは許されない。
5. 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレーク方式になった場合は、1イニングに1回行くことができる。
6. タイムの回数制限
 - (1) 守備側のタイム… 捕手または内野手が1試合に投手の所へ行ける回数は、3回以内とする。
なお、タイブレーク方式になった場合は、1イニングに1回行くことができる。野手が(捕手も含む)投手のところへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回とし数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督の回数には含まない。
 - (2) 攻撃側のタイム… 1試合に3回以内とする。なお、タイブレーク方式になった場合は、1イニングに1回行くことができる。
7. 攻守交代はかけ足でスピーディに行うこと。監督が投手のもとへ行き来する場合も、小走りでスピーディに行うこと。
8. 投球を受けた捕手は、その場から速やかに投手に返球すること。また、捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板に触れて投球姿勢をとること。
9. 打者は速やかにバッタースボックスに入ること。また、バッタースボックス内でベンチ等からのサインを見ること。
10. 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
11. ボール回しは禁止する。
12. 攻守交代時に最後のボール保持者は、必ず投手板にボールを置いてベンチに戻ることに。
13. 打者が2塁打を打ち、打撃用手袋から走塁用手袋に変えるためのタイムは認めない。

14. 監督はタイムを要求するとき以外は、みだりにベンチを出てはならない。
15. 前進守備時の野手の位置について故意に打者を惑わすことと、野手の安全を考慮して塁間の半分を目安として、投手がリリースするまでその位置に留まること。
16. 守備側の監督が、打者を故意四球とする意思を審判員に伝える場合は、必ずタイムを要求すること。二人の打者を連続して行う場合は、一人目の打者が一塁に達した後、二人目の申告を受ける。
17. 試合では、野球規則 9.02 (1) 【原注】は適用せず、負傷治療に要した時間は試合時間に算入しないこととする。
18. 投手の「12 秒及び 20 秒ルール」は準決勝以上で注意を与える。
19. プルペンでのキャッチボールはベンチ入りの指導者（30 番、29 番、28 番）が行うことを認める。
但し、イニング間の投球練習において指導者が捕手を行うことは不可とする。

【用具、装具等について】

1. 用具、装具およびユニフォームは、次に定められたもの以外は使用できない。
2. バットは、公認野球規則で規定されるもののほか、次による。
 - (1) バットは一本の木材で作った木製バットのほか、竹片、木片などの接合バットであること。
木製バットについて公認制度を適用しない。ただし、着色の制限はある。
 - (2) 金属・ハイコンバット（複合）は、J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認のものに限る。
なお、素振り用パイプおよびリングの使用を禁止する。
 - (3) 後付けグリップ等、市販の J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認バットに付け足しや改造が見受けられた場合は使用を禁止する。但し専用テープ等で固定し、被覆されたならかな形状のものであれば使用を認める。
 - (4) 安全面を考慮し、学童部では、一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・合（（金属 カーボン）バットについては、使用制限を行わない。
3. 捕手は、J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認レガーズ、プロテクターおよびSGマーク付き（Safe Goods＝製品安全協会のマーク。2025年より適用する）のマスク（スロートガード付）、捕手用ヘルメットを着用しなければならない。また、ファウルカップも着用しなければならない。
なお、捕手はキャッチャーミットを使用することを推奨する。
4. 打者、次打者、走者及びベースコーチは、必ずヘルメットを着用のこと（ベースコーチを除き、いずれも公認された両側か片側にイヤーフラップの付いたもの）。なお、捕手用

ヘルメットとマスクの一体製品は使用を禁止する。但し、大会におけるベースコーチのヘルメットは安全性を優先し、両側にイヤーフラップの付いたものが望ましい。

5. 顎ガード付きヘルメットの使用について

- (1) S G基準改正後にS G基準を満たしたものに限り使用を認める。
- (2) S G基準改正後にS G基準を満たした顎ガード付きヘルメットであっても、不正な改造(使用上認められていないにも関わらずパーツを勝手に取り付けるなど)をしていたり、破損していたりする場合 など、安全性を欠く場合には使用できない。
- (3) 既に使用・保有している顎ガードのないヘルメットに、後から顎ガードを取り付けることは認められない。(ヘルメット本体の安全性が確認できないため)

6. 投手用グラブについて

投手用グラブは捕球面・背面・ウェブは2色まで可。

ただし、白色/灰色/PANTONEの色基準14番より薄い色の使用は禁止とする。

7. ユニフォーム、スパイク等は、次に定めるものを着用しなければならない。

- (1) 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形、同意匠のユニフォームでなければならない。
- (2) ユニフォームの背中に選手名をつける場合は、全員が背番号の上にローマ字で姓のみとする。ただし、同姓の者がいる場合、名の頭文字を入れてもよい。
- (3) アンダーシャツは全員同色のものでなければならない。
- (4) 帽子は、全員同色、同形、同意匠のもの。また、ストッキングは全員同色ものでなければならない。
- (5) スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。ただし、金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。なお、運動靴でもよいこととする。
- (6) サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。投手のサングラスの使用を認める。ただしミラーレンズは除く。野手がサングラスを庇の上に乗せることを認める。
- (7) ネックウォーマーは、季節を考慮し着用することができる。
- (8) アームスリーブは野手の色の規制はなく片袖のみの着用でも可。投手はアンダーシャツと同色で両袖着用とする。